都道府県名	石川県

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	金沢市立泉中学校					
学　年	１年	２年	３年	特殊学級	計	教員数
学級数	３	４	５	０	１２	２５
生徒数	１１７	１５９	１６７	０	４４３	

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

確かな学力を保障する指導の工夫
　　～　個に応じた指導の工夫と評価を生かした指導の改善　～

２．研究内容と方法

(1)　実施学年・教科

全学年・全教科
（新しい学力観にたち，分かる楽しい授業の創造に，教師全員で力を注ぐため）

(2)　年次ごとの計画

平成14年度	○　主題　　確かな学力を保障する 副題　　～個に応じた指導の工夫と評価を生かした指導の改善～ ○　仮説　新学習指導要領のねらいを実現することが、学習内容の基礎・基本の定着と考える。よって、「基礎・基本の確実な定着」をめざす「学習指導計画・評価規準」をもち、また学習の成果だけでなく、その過程の評価を生かした「絶対評価の方法」についての研究を進めることが急務となる。とともに、「基礎・基本が確実に身に付いたかを見極め、定着させる具体的な手だてをもって「個に応じた指導の充実」を図ることが、「学力を保障する」ことではないかと考えた。 ○　研究内容・方法 ・１学期初めは、「教科研究会」「選択授業係会」「総合的な学習係会」で、「年間指導計画」「評価規準」の作成や確認を急務とした。また、「学年研究会」では、「学業指導や朝学習の計画」を検討した。 平成１４年度の実践をふまえた１５年度の「年間指導計画と評価規準」の作成完了は１月となった。 ・「前期選択教科の実践レポート」をとおして指導の工夫や成果を交流した。また「総合的な学習」の３年間にわたるⅠ期からⅥ期の計画に基づき、「文化祭発表」で学習成果を交流した。 ・１学期末には、「確かな学力を保障する」ために、さらに研究組織を３分科会制にし、テーマを以下のように設定した。第一分科会「分かる授業づくり」第２分科会「意欲の向上・学習の習慣化」第３分科会「学力分析」である。各分科会の提案と実践、意見交換・討議を進めた。 ・第１分科会では、「評価を生かした個への支援の見える指導案」第２分科会では、「学習に関する意欲アンケートの実施」「朝学習の充実」「基礎・基本の定着に生かせる手作りプリント」第３分科会では「基礎学力の分析のしかた」等、具体的な取り組みと方向性が見えてきた。

	・教科研究授業を参観するにあたり、基本的な視点をもって参観し記録をとるという形を作った。また、授業展開の中で生徒の習熟度にあわせて支援（教材）を工夫し、研究授業の成果や課題を討議した。 ・外部講師を招いて「全体研究会」をもち、「絶対評価の生かし方」について研修した。

平成15年度	○　主題　　確かな学力を保障する 副題　　～個に応じた指導の工夫と評価を生かした指導の改善～ ○　研究の見通し（仮説） 教科の内容的な「知識」はもとより「測りにくい力」といわれる思考力・判断力，表現力などを「生徒のこのような姿」ととらえて学習活動を仕組む，また，「学ぶ力としての学力」とされる「学習意欲」を向上させ，理解を深めるために必要な「学習スキル」を明示し，確実に指導・支援できるならば，「個に応じた」指導は一層進むであろう。 ○　研究の内容・方法 ・基礎学力分析の結果を受けて，学習をとおして「どのような力」を身につけさせたいのかを明らかにし，そのために重点的な単元の配置やどのような指導方法や教材・教具・形態の工夫を取り入れるのか，「年間指導計画」の構造化を図る。 ・単元計画の指導案を作成し，指導技術の向上を目指して，研究授業の実践をする。そのときに，評価をもとに発展的な教材，補充的な教材を開発，蓄積していく。 ・学年研究会を中心に，テストの事前・事後指導を企画・運営し，学力の定着度を高める。生徒自身の学びの歩みを記録し，きめ細かな支援の継続を図る。 ・家庭での学習習慣の定着を目指して，工夫を図る。

平成16年度	○　主題　　確かな学力を保障する 副題　　～個に応じた指導の工夫と評価を生かした指導の改善～ ○　研究の見通し（仮説） 評価場面において個に応じた効果的な指導や支援をするような工夫された授業が，全教科で日常的に行われることによって，生徒一人一人に応じて学力を伸ばし、基礎的，基本的な力も確実に定着するであろう。 学力が高まることによって、さらに生徒自らの学ぶ意欲が向上し、発展的な学習が求められ，教材等の開発も一層高められるようになろう。 ○　研究の内容・方法 ・習熟度に応じた補充的な教材や発展的な教材等の開発に努め，生徒の評価や学力検査分析，学習意欲調査等の結果を活用しながら授業改善を進める。 ・必要に応じて，外部からの講師や指導者を招聘し，全体研究会や教科部会での講義，演習等で授業力の向上を図るように努める。 ・教科部会の中での授業研究を充実させ，生徒の学力の伸びを確認できる資料や方法についても研究を進め，全体研究会で情報交換や共通理解を図りながら研修を深め，相互に授業力を高めていく。 ・学年研究会を中心に，より効果的なテストの事前・事後指導を企画・運営し，学力の定着度を高める。 ・生徒の「学習と生活ファイル」をより有効に活用する方法を検討し，家庭との連携も図りながら，きめ細かな支援の継続を図る。

(3)　研究推進体制

研究組織図

校長・教頭 ―― 研究推進部（フロンティアティーチャー） ―― 全体研究会
―― 学年研究会
―― 教科研究会

Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

１．研究の成果

・学習意欲アンケート結果を前年度と比較すると，「授業では，ノート作りを大切にしています。」「実験や実技などの活動は楽しい」などの人数は，継続して高い値を示し，特に今年度前期の結果では，「苦手な教科も勉強している」の値が高くなっている。これらは，わかる授業を目指し，少人数指導や各教科での授業改善によって，基礎学力を着実に身につけようとする学習意欲が高まってきていると言える。（詳細は資料１を参照）
・昨年度と同様に，県基礎学力調査における県全体と本校の結果比較を各教科で行った。（詳細は資料２を参照）各問における具体的な分析を行ったところ，全教科において平均通過率が県を上回っており，昨年の三年生と比較すると良い結果であった。
・生徒の弱点を補強しなければならない部分を明確にし，英語と数学における習熟度別少人数授業や，数学と理科、国語と理科における合科授業など，生徒の力を伸ばすための指導法や支援方法の工夫，教材開発が進んでいる。

２．今後の課題

・授業実践は着実になされてきたが，教育課程の全体構造を確立し，研究の方向性についての共通理解を十分にしていく必要がある。
・その授業における学習のねらいが見えるように，学習課題を生徒に明示するなど授業における有効な共通確認事項についての情報交換がさらに必要である。
・日々の実践における授業改善への意識や授業力を，さらに高めるような研修会が必要である。

Ⅳ　学力把握のための学校としての取組

学習意欲アンケート調査を年２回，７月と２月に実施し，生徒の学習意欲について家庭学習も含めて調査し，全体と個人の分析結果を前年度と比較しながら，学級，学年，教科で意欲を向上させるような具体的な取り組みができるように活用する。
また，三年生は県学力検査の結果の振り返りを行い，自分の学習状況について把握したことが，その後の学習に活かせるように取り組ませる。

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

＊　公開研究発表会　（平成１６年１１月２６日実施予定）
＊　研究内容についてはＨＰで紹介している。
＊　フロンティア校で研究状況について情報交換を行い，その内容を全体研究会において紹介している。

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　□１５年度からの新規校　・１４年度からの継続校

【学校規模】　□６学級以下　・７～１２学級
１３～１８学級　□１９～２４学級
□２５学級以上

【指導体制】　・少人数指導　・Ｔ．Ｔによる指導
□一部教科担任制　□その他

【研究教科】　・国語　・社会　・数学　・理科
・外国語　・音楽　・美術　・技術家庭
・保健体育　・その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　・有　□無

資料１　平成１４，１５年度学習意欲アンケート結果比較グラフ

平成15年度　　前期　学習に関する自己評価　　年　　組･氏名

〔学習意欲アンケート〕

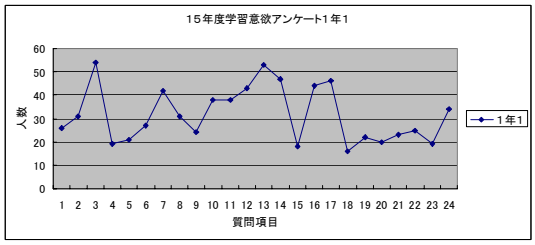
これは、みなさんの普段の学習についてのアンケートです。答えに良い悪いはありません。思ったとおり正直に答えてください。

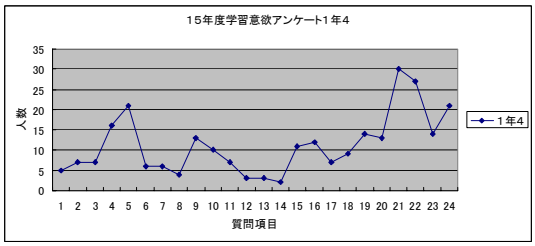
（答え方）　あてはまる数字に〇印をつけてください。

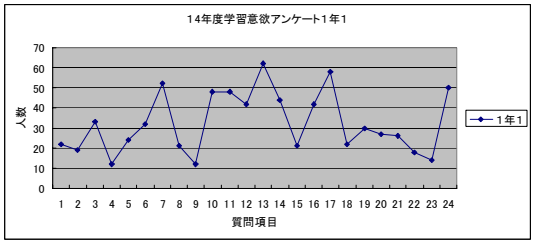
「とてもよくあてはまる」　・・・ 1
「どちらかといえば、あてはまる」　・・・ 2
「どちらかといえば、あてはまらない」　・・・ 3
「まったくあてはまらない」　・・・ 4

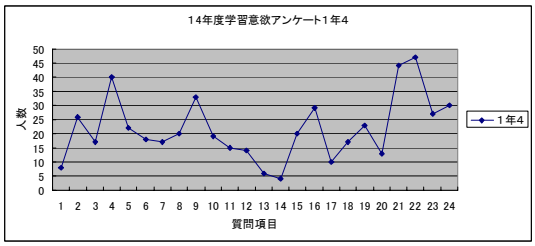
1　家庭学習（予習・復習・宿題など）は、たいていやっています　1　2　3　4
2　家の人に「勉強しなさい」と言われなくても、勉強をしています　1　2　3　4
3　苦手な教科も勉強をしています　1　2　3　4
4　自分で、目標や計画を立てて、勉強をしています　1　2　3　4
5　解けなかった問題を先生に聞いたり、調べたりしてみて分かるようになるまで考えます　1　2　3　4
6　難しい問題でも、粘り強く取り組んでいます　1　2　3　4
7　その日のうちに、宿題をすませています　1　2　3　4
8　先生から、勉強面でのアドバイスをもらうと、やってみようと思います
9　自分の勉強のやり方が、良いか悪いかをよく考えます　1　2　3　4
10　テスト前にもらった計画表を利用し、計画的に過ごすようにしています　1　2　3　4
11　テストが終わったら、答えがあっていたかどうかを進んで調べてみます　1　2　3　4
12　先生の説明や話をしっかり聞いています　1　2　3　4
13　授業では、ノートづくりを大切にしています。　1　2　3　4
14　グループの発表で、決められた自分のやるべき仕事や勉強は、必ずやります　1　2　3　4
15　話し合いや意見交換のとき、進んで参加します　1　2　3　4
16　調べること、読書することが楽しいです　1　2　3　4
17　実験や実技などの活動は楽しいです　1　2　3　4
18　やることが難しそうだと、うまくできないのではないかと気になってますますできなくなってしまいます　1　2　3　4
19　間違っていると嫌なので、あまり手を挙げたことがありません　1　2　3　4
20　目標をたてるとき、初めから低めの目標にします　1　2　3　4
21　性格はあきっぽいほうだと思います　1　2　3　4
22　勉強の時間がきていても、好きなＴＶやＴＶゲームなどのせいでなかなか始められません　1　2　3　4
23　難しい勉強をやっていると、疲れてきて、やめることが多いです　1　2　3　4
24　何のために勉強しているのか、分からなくなることがあります　1　2　3　4

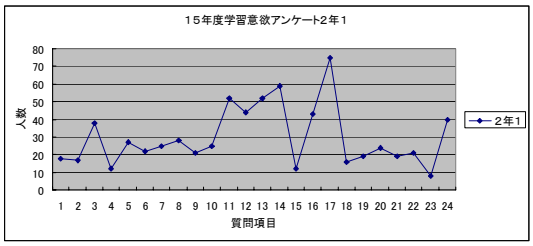
平成１４，１５年度前期学習意欲アンケート結果比較グラフ

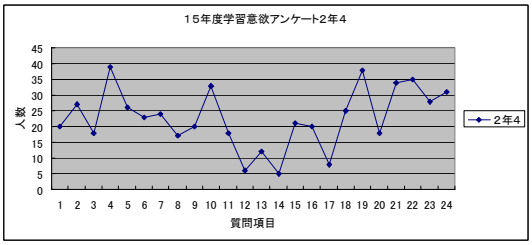


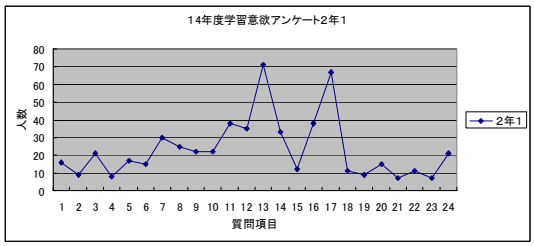


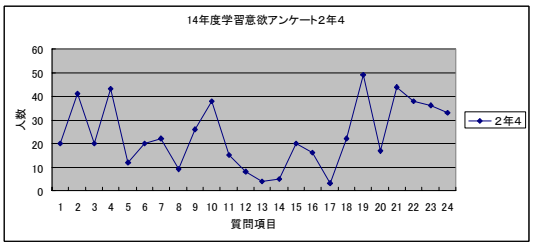


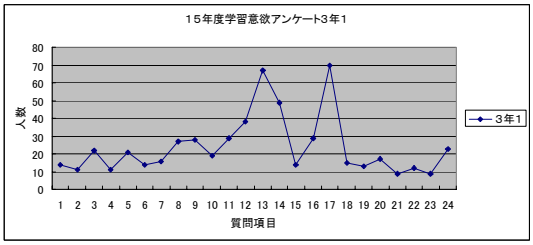


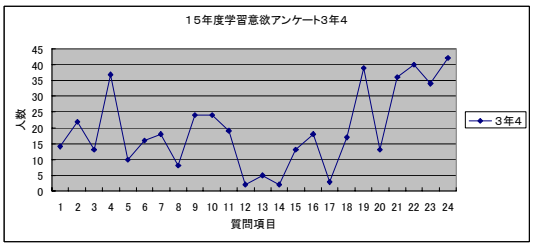


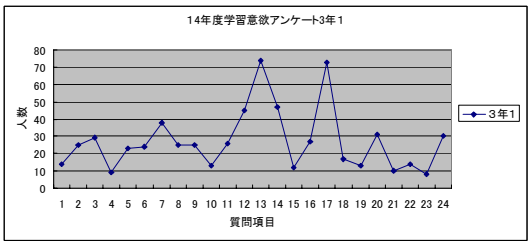


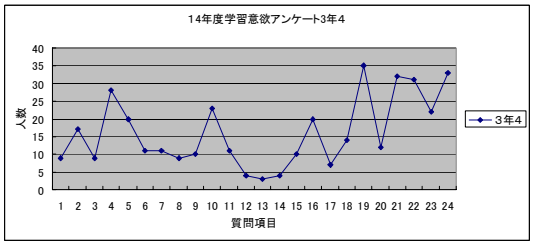












資料２

１５年度「基礎学力調査」　調査結果の分析（県全体と本校）

（国語）

【１】県の結果について

１　問題全体の分析（出題傾向・範囲・難易度・工夫等）

・説明的な文章、文学的な文章、古典における基礎基本的な事項を取り上げ出題されている。

・「言語事項」については中２までの漢字の読み、小学校学年別配当表に示す漢字の書き取り、語句の活用や１．２年の範囲内の基本的な文法事項等が出題されている。

・今回は「話すこと・聞くこと」の領域における出題があり、条件にあった事項を工夫して適切に話し言葉で表現する力を見る問いが出題されていた。

２　通過率がよかった問題・分野・領域（８０％以上および６０％以上程度のもの）

・説明的な文章、文学的な文章における、文章の展開や叙述に注意して内容をとらえる力はどちらも８０％を越えた。それに付随して、文脈の中における語句の意味を捉えたり、人物の心情をとらえる問いも通過率が高かった。

・古典では、仮名遣いや古語の意味を尋ねる問いで通過率がよかった。

・漢字の読み書きでは「経る」「成績」の読み書きは低かったものの、あとの漢字については６０％以上の高い通過率であった。

３　通過率が悪かった問題・分野・領域（５０％以下および３０％以下程度のもの）

・いずれの分野文章においても、主題や要旨をまとめたり説明を求める問いでは通過率が３０％を下回った。

・具体的な場面設定に基づいて、話すような言葉で適切に表現する力を問う問題の通過率が低かった。

【２】本校と県の結果の比較について

１　県の結果と比較し通過率がよかった問題・分野・領域（１０％以上程度よかったもの）

・説明的文章における文章の叙述に即して主題を考えたり、要旨をとらえる問いでは、県全体が２０．５％の通過率に対し、本校は３６．７％と１６．２％上回った。

・文学的な文章における人物の心情をとらえる問いでは、県全体が４４．２％であったのに対し、本校は６０．０％の通過率で１５．８％上回った。

・「話すこと・聞くこと」の領域における、条件にあった事項を工夫して表現する問いでいずれも大きく上回った。条件１（先生に父の欠席を伝える）の県の通過率が４６．６％に対し本校は６０．０％［＋１３．４％］、条件２（明日の用件内容を伝える）では５９．５％の通過率に対し本校は７６．７％［＋１７．２％］、条件３（都合を確認する）では３８．０％に対し６３．３％［＋２５．３％］であった。

２　県の結果と比較し通過率がわるかった問題・分野・領域（１０％以上程度わるかったもの）

・中２までの漢字の読みの設問（小問は全部で６問あり、うち「報いる」「躍る」「経る」の読み）で大きく県全体を下回った。

「報いる」・・県全体７４．７％の通過率に対し、本校６３．３％（－１１．４％）

「躍る」・・・県全体８２．５％本校７３．３％　（－　９．２％）

「経る」・・・県全体４５．１％本校３３．３％　（－１１．８％）

３　全体的に考えられる本校の傾向等について

・「読むこと」の領域においては主題や要旨、人物の心情をとらえる力、また、「話すこと・聞くこと」の領域においては、具体的な場面設定に基づく表現力がそれぞれ高い傾向がうかがえるが、文章を読み、その理由や説明を求められる問いに対しては、とらえた要旨や心情を生かしながら表現する力に欠けている傾向が見られる。
・漢字の読みの通過率のわるさからは、読書量の不足やこつこつ学習することを嫌う傾向がうかがえる。

【３】本校の昨年度との比較

・全小問数で見た結果では、昨年度は全小問１９問中、１３問で県を上回っている。今年度は全小問２１問中、１２問で県を上回る結果となった。（ただし、漢字の読み書きおよび条件作文は大問としてとらえてある。）昨年に比べ正解率は減っているが、文章の展開や叙述に即して内容や心情をとらえる力や、条件にあった形で表現する力は昨年度を大幅に上回っている。ただし、表現力については会話としての表現力はあるものの、文章で書いて表現する力は、昨年同様と思われる。音声表現できる力を、今後、文章表現力に結び付けていく必要がある。

（社会）

【１】県の結果について

１　問題全体の分析（出題傾向・範囲・難易度・工夫など）

・基礎的・基本的な内容を重視した問題である。
・資料を活用した問題が多く、資料をもとに思考力・表現力・判断力を問う問題が多い。従って、内容的にはそれほど難しくないが、資料をもとに自ら学び、考える力がないとなかなか答えが導き出せない工夫がされている。

２　通過率が良かった問題・分野・領域（８０％以上及び６０％以上程度のもの）

・地理分野の通過率が高かった。まず、都道府県名や地方名を答える問題は８０％を越え、雨温図をもとに地域を判別する問題、グラフから人口の特色をつかむ問題などに６０～７０％以上の通過率が見られた。また、身近な地域に関する問題では、調査方法に関する通過率が高かった。しかし、地形図を読みとる問題ではやや通過率が下がった。北海道を書く問題も６０％を超えており、新指導要領の中での取り組みの成果も見られた。
・歴史分野では、全体的に通過率がやや低めだが、身近な地域に関する問題で７０％弱の通過率で、各時代の法令についての基本的な問題でも、資料をもとにしながら、７０％を越えた問題があった。ただ、思考力を必要とする問題では通過率が下がった。

３　通過率が悪かった問題・分野・領域（５０％以下及び３０％以下程度のもの）

・地理では、グラフや統計資料を使った問題で、３０％台のものが見られたことから、教科書では見られないような新しい資料の読み取りがやや弱いように感じる。
・歴史では、５０％を下回った問題が８問とやはり苦手な様子が見られた。各時代の法令について、その内容から当時の様子をつかむことが苦手で、法令の名前は分か

っていても、どの資料と結びつくのかが分からないようだ。また、並び替えの問題や、時代の特色をつかむ問題も５０％をきっており、苦手な面が見える。
・資料をもとにテーマを考える問題も低いため、資料をもとに考える力が備わっていないと考えられる。

【２】本校と県の結果の比較について
１　県の結果と比較し、通過率が良かった問題・分野・領域（１０％以上良かったもの）

・どの問題でも通過率は似かよっており、県で通過率が高いものは、本校でも高く、その通過率もほぼ同じものであった。特徴的なものとしては、調査方法の手順についての問題は１００％の通過率を示し、地形図を読みとる問題や、歴史史料からテーマを考える問題で通過率は５０％前後と低いながらも県の通過率を１０％以上上回っていた。
・結果より、ある程度知識・理解に関する力は持っており、基本問題は理解しているものと思われる。

２　県の結果と比較し、通過率が悪かった問題・分野・領域（１０％以上悪かったもの）

・通過率が悪かった問題も、県の結果とほぼ似かよっており、地理では新しい資料の読み取りが苦手なこと、歴史では、資料をもとに時代の特徴をつかみ、表現する問題が苦手である。
・特に歴史では近現代（明治時代以降）に県の通過率より１０％程度下回る結果が見られた。

３　全体的に考えられる本校の傾向等について

・本校と県との通過率はほぼ同じで、大きな差はなかった。
・基本的な知識・理解はしっかりしている生徒が多いようだ。
・前年度の生徒も同様だが、基本的な語句は知っていても、その語句を本当に理解しているわけではないようで、そのため、資料を使って考え、答えを導き出す力が弱い。今後は、様々な資料をもとに思考力・判断力をつけ、自分の考えをしっかり表現することができるようにしていく事が必要だと考えられる。

（数学）

【１】県の結果について
１　問題全体の分析（出題傾向・範囲・難易度・工夫等）
・基礎的な内容の問題がほとんどで適当と思われる。
・１，２年全分野からの出題で適当と思われる。
・反射的に答える問題と、問題全体を見通す思考力が必要な問題とがあり、そのバランスもとれていて難易度・工夫とも適当と思われる。

２　通過率がよかった問題・分野・領域（８０％以上及び６０％以上程度のもの）
・正負の数の意味、正負の数の基本計算（加法）、図形の名称を答える問題が通過率が

８０％を越えた。
・各分野の基本事項、正負の数の四則が混じった計算、文字式の計算、１次方程式の意味や立式は通過率が６０％を越えた。

３　通過率がわるかった問題・分野・領域（５０％以下及び３０％以下程度のもの）
・作図、表面積を求める、動点による１次関数の問題が通過率が５０％を下回った。
・三角形の合同条件を答える、等式の証明の結論の式を導く問題が通過率が３０％を下回った。

【２】本県と県の結果の比較について
１　県の結果と比較し通過率がよかった問題・分野・領域（１０％以上程度よかったもの）
・作図（県より１７％高い）　　・多角形の外角（県より１０％高い）
・立体の表面積（県より１３％高い）・証明の等式づくり（県より１０～１７％高い）
・比例にグラフ（県より１７％高い）・１次関数の式（県より１５％高い）
・動点による１次関数（県より１０～２０％高い）
・等式の証明の結論の式（県より１２％高い）

２　県の結果と比較し通過率がわるかった問題・分野・領域（１０％以上程度わるかったもの）
・正負の数の分数計算（県より１０％低い）

３　全体的に考えられる本校の傾向等について
・基本的な内容については、県の通過率と比べて少しずつよく、基礎学力の定着はできていると考えられる。
・今後は基礎学力の一層の充実と、全体を見通す問題を論理的に考える力を伸ばす学習活動の工夫が求められる。

【３】本校の昨年度との比較について
・本校と県の結果の比較をみると、通過率がよかった部分が昨年度より増え、通過率がわるかった部分が減った。
・基本的な内容については、昨年度も本年度も県と比べ通過率が高かった。
・図形や１次関数で昨年度より本年度のほうが通過率が高くなった。

（理科）

【１】県の結果について
１　問題全体の分析（出題傾向・範囲・難易度・工夫等）
・基礎基本的な内容が重視され、観察実験に基づいた科学的な知識・科学的な思考をみる教科書程度の問題が多い。
・範囲は１・２年のほぼ全分野から出題されている。
・定期テスト程度であり、難しいものではない。
・記述で解答を求める問題、化学反応式、計算問題は基本的であるにもかかわらず、定着率があまりよくない。（１０～３０％）

２　通過率がよかった問題・分野・領域（８０％以上及び６０％以上のもの）
・葉の基本的なつくり（気孔）の特徴、サンゴのたい積環境、水中でたい積してできた

地層と陸上でたい積してできた地層の区別、気孔から出入りする気体名、天気図の記号からの風力の読みとり、雲の発生の仕組み、葉の細胞にある緑色の粒の名称、化石とたい積環境、ガスバーナーの点火手順が８０％を越えた。

・呼吸によるＢＴＢ溶液の色の変化、前線の名称、二酸化炭素とＢＴＢ溶液の色の変化、像の大きさとレンズ・物体・スクリーンの距離関係、水温と金魚の動き、電流計が示す値の読み取り、比例のグラフの読み取り、呼吸とＢＴＢ溶液の色の変化、化石と地層の生成年代、変温動物の体温と動き、比例のグラフの書き方、天気図の記号からの風向の読みとり、空気中から水中への光の道すじが６０％を越えた。

３　通過率がわるかった問題・分野・領域（５０％以下及び３０％以下のもの）

・水溶液の性質の違い、気温と湿度から露点を求める計算問題、酸化の化学反応式、力のつりあいの条件、寒冷前線の動きと天気の変化、電流と磁界と力のそれぞれの向きの関係、葉の裏からの蒸散量を調べる実験方法、回路づくり、化合の質量計算、充分酸化させるための実験操作は５０％に達しなかった。

・抵抗のつなぎ方と電流の強さ、オームの法則を使っての抵抗を求める計算、化学変化のモデル化、ガラス棒を使う際の注意点は３０％以下であった。

【２】本校と県の結果の比較について

１　県の結果と比較し通過率がよかった問題・分野・領域（１０％以上よかったもの）

・抵抗のつなぎ方と電流の強さの問題の通過率は４３％と低いながらも、県より、２１％高かった。

・気温と湿度から露点を求める計算は、県よりも１９％高かった。

・二酸化炭素とＢＴＢ溶液の色の変化、像の大きさとレンズ・物体・スクリーンの距離関係、前線の名称、比例のグラフの書き方、硝酸銀水溶液のはたらき

２　県の結果と比較し通過率がわるかった問題・分野・領域（１０％以上わるかったもの）

・寒冷前線の動きと天気の変化の関係を問う問題の通過率が２７％で県全体より１６％低い。

３　全体的に考えられる本校の傾向等について

・県と本校では顕著な差異はなく、ほぼ同じような結果だった。計算問題で若干本校の通過率が高かった。

【３】本校の昨年度との比較

・通過率が県との比較で 10％以上良かった問題の数は昨年２、本年７。10 パーセント以上悪かった数は昨年７、本年１と全体的に向上している。

・計算問題の通過率は低いながらも県に比べると良くなっている

（英語）

【１】県の結果について

１　問題全体の分析（出題傾向・範囲・難易度・工夫等）

・基礎的な内容の問題で、設定された場面で適切に使うことが出来るかどうかといった運用力を見る問題が多い。

・１，２年の範囲からの出題であるが、読みとりや表現の問題では、題材として、ＡＬＴや友人のこと、清掃キャンペーンなど、日常生活に関するもの、生徒の興味関心を

喚起するもの、国際理解に関するものなどを取り上げている。また、選択肢問題、適語補充完成問題など、無理のない解答形式である。

2　通過率がよかった問題・分野・範囲（８０％以上及び６０％以上程度のもの）

・「聞くこと」の領域では、絵の内容にあった場所、時刻などを問う問題で９０％を越える高い通過率であった。
・言語知識を問う問題では be 動詞を中心とした１年生の学習範囲、２年生での熟語などを問う問題で通過率８０％を超えた。
・場面や状況にふさわしい表現の理解をみる問題、全体的な読み取りの問題で６０％を越えた。

3　通過率がわるかった問題・分野・範囲（５０％以下及び３０％以下程度のもの）

・聞き取りでは、スピーチというまとまりのある内容の英文を聞いて、大切なキーワードとなる単語や内容を聞き取る問題で、通過率５０％に達しなかった。
・「書くこと」の領域で好きなことを英語で書く問題、未来表現を使った英文を書く問題、過去形　　を使って自分のことを表現する問題で、３０％以下と落ち込んでいる。

【２】本校と県の結果の比較について

1　県の結果と比較し通過率がよかった問題・分野・領域（１０％以上程度よかったもの）

・「聞くこと」の領域では、スピーチを聞いて、大切なキーワードとなる単語や内容を聞き取る問題で、高い通過率ではないが、いずれも県の通過率を上回った。特にキーワードを聞き取る問題で、県全体が３７．７％の通過率に対し、本校では５６．７％と１９％上回った。
・「読むこと」の領域では、場面や状況にふさわしい表現を理解して答える問題において本校の通過率が良好であり、すべての問題で県の通過率を上回った。特に数を尋ねる表現では、県の通過率７４．２％に対し本校は９３．３％［＋１９．１％］、お礼を言われたときの返しの表現では、県の６９．２％に対し本校は８３．３％　［＋１４．１％］、道で声をかけられた時の返しの表現では、県の７７．８％に対し本校では９３．３％［＋１５．５％］であった。また、まとまりのあるやや長い文章を読みとる問題でも、本校は大半の問題において県の通過率を上回　　り、特に表現の仕方を変えてある文章を的確に読みとる問題では、県の通過率４３．７％に対し本校では６３．３％［＋１９．６％］、内容の詳細を読みとる問題でも７１．９％に対し、８３．３％［＋１１．４％］であった。
・「書くこと」の領域では、すべての問題において本校は県の通過率を上回っている。１０％以上程度よかったものとして、more を用いた比較の文章の完成問題で、県の通過率５５．６％に対し本校は６６．７％［＋１１．１％］、SVOO の文章完成問題で、６９．３％に対し、８３．３％［＋１４％］、出身地について英語で書く問題で、４２．５％に対し、６３．３％［＋２０．８％］、好きなことを英語で書く問題で、１６．５％に対し３３．３％［＋１６．８％］、未来表現を使った英文を書く問題で、２０．４％に対し３３．３％［＋１２．９％］であった。

2　県の結果と比較し通過率がわるかった問題・分野・領域（１０％以上程度わるかったもの）

・「聞くこと」の領域で、対話文を聞いて具体的な状況を理解し説明された場所と品物を聞き取る　問題で県の通過率を下回った。
「場所」を聞き取る問題・・・県全体通過率６２．３％に対し

本校５０．０％［－１２．３％］
「品物」を聞き取る問題・・・県全体通過率９２．８％に対し
本校８０．０％［－１２．８％］

３　全体的に考えられる本校の傾向等について

・基礎的言語知識を問う問題や、キーワードを的確に聞き取ったり読みとったりする問題では通過率が高く、県全体の通過率をも上回っており、「知識・理解」の観点における基礎的な英語力の定着が伺われる。
・言語知識を選択肢の形で問われると正答できるが、与えられた場面や条件で言語知識を活用して表現する力が非常に弱い。県全体についても同様の傾向が見られる。
・今後は基礎学力の一層の充実を図るとともに、具体的な場面や条件での英語表現力を身につける学習活動の工夫が求められる。

【３】本校の昨年度との比較について

・全小問数で見た結果では、昨年度は全小問２８問中１５問で県の通過率を上回っている。今年度は全小問３２問中２６問で県を上回る結果となり、通過率がよかった部分が昨年度より大幅に増えている。
・昨年度と比較して、「聞くこと」の問題通過率、基礎的言語知識を問う問題の通過率、表現力を　問う問題の通過率において、県の通過率を上回った。しかし、全体的な内容を理解する「読むこと」の問題と、基礎的言語知識を問う問題については、昨年度も今年度も県の通過率を上回っている。
・昨年度も今年度も県全体の傾向同様、表現力が非常に弱いので、今後の学習活動の工夫が求められる。